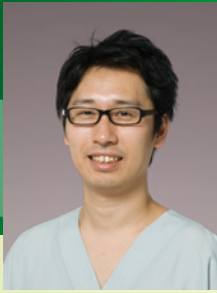


新しい腸管洗浄剤と大腸内視鏡専用検査食を組み合わせた前処置の評価について

NTT東日本関東病院 消化器内科
港 洋平 先生



NTT東日本関東病院 消化器内科 内視鏡部部长
大園 研 先生



背景と目的

大腸内視鏡検査(以下CS)において前処置は効率的な検査を行うために重要課題の一つであるが、用法・用量として経口腸管洗浄剤を大量に処方されることが受診者の大きな負担となり、検査の開始を遅らせる要因のひとつになっていた。また、検査前日の食事では検査の支障となる食材摂取を禁止する食事指導がなされているが、結局は受診者各自の意識判断に任せるため、前処置不十分となり検査時間の延長を経験する。最近、従来品より腸管洗浄力が改善され、処方量も少ない新しい腸管洗浄剤が発売された。新しい腸管洗浄剤では洗浄力の向上により、食事制限も緩和できる可能性が期待されていた。今回、新しい腸管洗浄剤モビブレップ®を用い、常食群と検査食群について腸管内の洗浄度を評価し、前処置効率の違いについて比較検討した。

対象

2014年7月から10月までに当院でCSを受け、有用性検討に同意が得られた患者100名(検査食群50名、常食群

50名)を対象とした。重度の便秘例、糖尿病・炎症性腸疾患、腹部手術歴(虫垂炎以外)の既往例は除外した。

方法

対象受診者100名を無作為に両群に割り付けた。検査前日は検査食群(以下A群)には検査食(クリアスルーJB3食セット)を、常食群(以下B群)には普通食を摂取してもらった。

クリアスルーJB3食セットは、朝食、昼食、夕食に間食がセットになった検査食で、これだけで前日の食事を満たすことができる(図1)。また、前処置としての投薬は、検査前日にラクソベロン®内用液(10mL)1本、検査当日に腸管洗浄剤モビブレップ®を用法・用量に準じて処方した。

評価項目として、腸管内洗浄度(残渣の評価)を盲腸、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸、直腸の各部位について5段階で評価した(評価方法の詳細は表1)。また、受診者に対して前日の食事についてのアンケートを行い、検査食群についてはその食事としての容認度についても評価した。

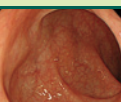
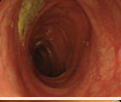
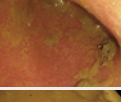
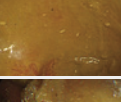
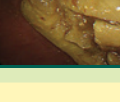
図1 検査食のメニュー内容



朝食	昼食	間食	夕食
 鶏とたまごの雑炊	 たまごがゆ	 おろしりんご	 ビーフシチュー
	 じゃがいものそぼろあんかけ	 クラッカー	

表1 大腸内視鏡検査時の残渣の評価方法

検査施行医が、「盲腸」「上行結腸」「横行結腸」「下行結腸」「S状結腸」「直腸」の6部位を以下の判定基準で5段階で評価

判定基準	評価	観察画像
A (5点)	洗浄液は透明で残渣なし	
B (4点)	わずかに残渣あるが、観察に全く支障なし	
C (3点)	残渣あり、回盲部まで観察到達は可能	
D (2点)	残渣便あり避けて何とか観察	
E (1点)	観察不可能	

6部位ごと(各5点満点)

結果と考察

受診者背景はA群が男性36名、女性14名(平均年齢56.4歳)、B群が男性38名、女性12名(平均年齢58.6歳)であった。腸管内洗浄度の評価結果を部位ごとに示した(表2、図2)。すべての部位でA群、B群ともに平均4点以上であり、以前使用していた腸管洗浄剤に比べて高い評価点であった(1)。新しい腸管洗浄剤を用いることで観察には支障がないレベルまで洗浄できるという評価結果であった。しかしながら、4点以上ではあるが、A群とB群の間ではすべての部位で統計的な有意差($p < 0.05$)があり、検査食群であるA群の方が高い洗浄度の評価であった。また、総合評価点数全体のばらつきを見た箱ひげ図(図3)では、箱の形状およびヒゲの長さより有意水準0.1%で、A群に比べてB群は明らかにばらつきが大きいという結果であった。このことは、検査食を用いた方が、1日の検査にかかる時間や検査人数について、日々安定に推移でき効率的であることを示していると考えられる。また、A群、B群各々に前日の食事についての質問をした結果を示した(図4)。認容性ではA群での検査食の味についての評価は62%が美味しいとの評価であった。また、同群の食事の満足度については、「物足りない」との割合が多かったが、ほぼ半数は「ちょうど良かった」との評価であった。この差が少ないのは、検査食自体のボリューム感はないものの「間食」がセットされていることがプラスに働いたのではないと思われる。B群の食事アンケート結果では検査前日の食事内容について指導は受けているものの、実際の食事メニューや食材に困ったとの回答が1/3あり、消化の良いものを食べようと意識して食事をしていたことがわかった。

表2 腸管内洗浄度の評価結果

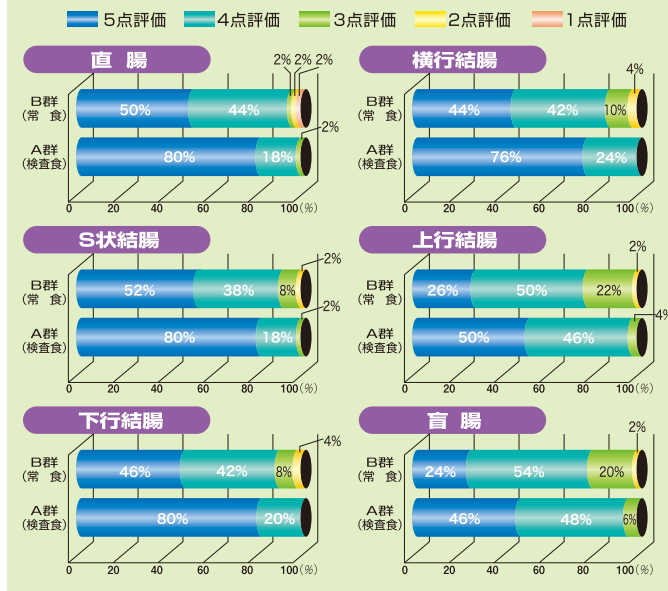
群	A (検査食)	B (常食)	p
直腸	4.78	4.38	0.0018 *
S状結腸	4.78	4.40	0.0002 **
下行結腸	4.80	4.30	0.0002 **
横行結腸	4.76	4.26	0.0004 **
上行結腸	4.46	4.00	0.0018 *
盲腸	4.40	4.00	0.0051 *
総合	27.98	25.34	0.0002 **

★有意差 $p < 0.05$

★★有意差 $p < 0.001$

Mann-Whitney 検定

図2 腸管内洗浄度の前処置の評価分布



●本症例のクリアスルー-JB3食セットは2021年9月に商品内容が変更されています。
【変更内容】食塩相当量(6.7gから4.5g) / 間食(おろしりんご削除)

また、それぞれの群で2回以上の大腸内視鏡検査を経験している被験者に次回の検査時の検査食利用の希望を聞いてみると、検査食経験者は9割以上が次回も検査食利用を希望したが、常食群では「検査食」の経験がない不安からか3割程度の次回利用希望であった(図5)。

結論

今回の結果から、新しい腸管洗浄剤の洗浄効果は従来品に比べて非常に高いことがわかった。しかしながら、検査自体の効率を考慮した場合には、併せて大腸内視鏡専用検査食を活用することは非常に意味のあることだと言える。

検査食自体の次回利用希望については、使用経験の有無が容認度に大きく影響を与えることから受診者への事前の情報提供が必要なのかもしれない。「クリアスルー-JB3食セット」は味の評価も高く、間食がセットされているために食事としての物足りなさも補助されており、検査前日の食事としての利用価値は高いと考える。

◆参考文献:

1) 千葉秀幸ほか: 大腸内視鏡検査の前処理における検査食の経験、第29回日本大腸検査学会総会抄録、2011

図3 洗浄の状態(総合点)

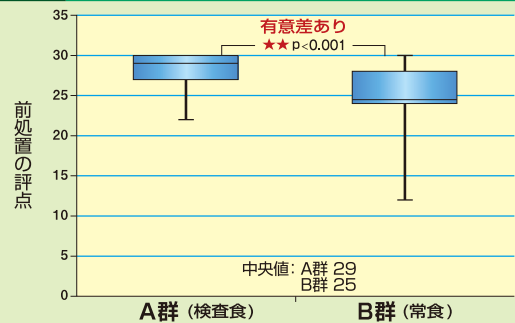


図4 食事アンケート結果

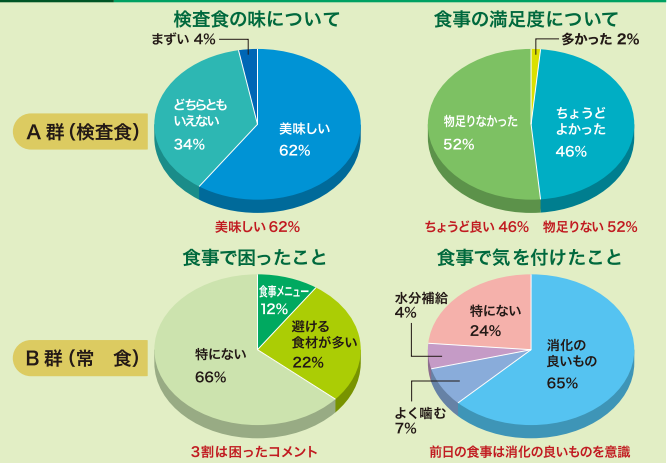
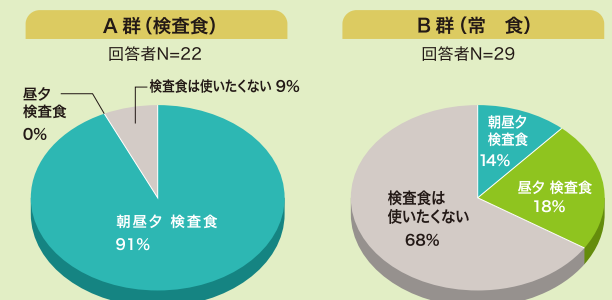


図5 次回の食事希望アンケート結果

(2回以上大腸内視鏡検査を受診の患者に実施)



●発行:メディバンク株式会社

●資料提供:キューピー株式会社